

平成29年度第3回小金井市介護保険運営協議会

計画策定に関する専門委員会会議録

(議事要旨)

と き 平成29年7月20日(木)

ところ 小金井市商工会館 2階 大会議室

平成29年度第3回小金井市介護保険運営協議会（計画策定に関する専門委員会）
議事要旨

日 時 平成29年7月20日（木）午後2時～午後3時30分

場 所 小金井市商工会館2階大会議室

出席者 <委員>

市川一宏	井上雅夫	清水洋
酒井利高	伊藤祐彦	玉川弘美
橋詰雅志	村上邦仁子	亘理千鶴子

<保険者>

福祉保健部長	佐久間育子
介護福祉課長	高橋正恵
高齢福祉担当課長	鈴木茂哉
介護保険係長	宮奈勝昭
認定係長	中元孝一
高齢福祉係長	佐藤恵子

<コンサルタント>

生活構造研究所	半田幸子
	佐藤いづみ

欠席者 <委員>

新井信基	佐々木智子	森田和道
------	-------	------

傍聴者 2名

議題

（1）第7期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画に係る体系について（協議）

【開 会】 午後 2 時

- ・事務連絡（欠席者、発言時の留意点、委員の交代）
- ・会長挨拶
- ・資料確認
- ・会議録の確認、確定

【議 題】

（1）第 7 期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画に係る体系について（協議）

介護福祉課長より資料 1、資料 2、資料 3 を一括説明

（酒井委員）資料 2 の体系について、基本施策の 1 は、介護予防・重度化防止というテーマと就労と社会参加という施策の細目の整合性が気になる。高齢者の就労や社会参加を大きく打ち出すところがないと、高齢者がアクティブに生活し、社会の一員として地域を支えるという要素が後ろに追いやられてしまう。

（会長）元気な高齢者の社会参加を大きく打ち出すほうがよいのではないか、という意見である。

（酒井委員）地域福祉の担い手として、とりわけ前期高齢者が主体になっている。そこをきっちり強調したらよいのではないか。

（会長）基本施策の 3 とも関係がある。介護予防や重度化防止ということで限定するのはどうなのかという意見である。

（介護福祉課長）国の制度に引っ張られたつくりだったと思う。もう少し積極的にアクティブな高齢者観を打ち出したほうがよいかと思うので再度検討する。

（会長）介護保険制度の項目としてはあるが、ニュアンスの違いを出したほうがよい。高齢者保健福祉計画となると広い。ご検討いただきたい。

（井上委員）資料 2 の No. 4 5 だが、地域の居場所づくり、サロンを新規としてあげている。従来もあったが、どのように考えて新規としているのか。

（高齢福祉担当課長）現在も社会福祉法人、NPO 等に認知症カフェなどを展開してもらっている。今後も社会福祉法人、介護事業所、NPO、医療機関等と連携して地域の居場所づくりの構築を進めてまいりたい。

（井上委員）具体的な目標（会場数、参加人数など）を計画に折り込んだ方がよいのではないか。さくら体操もこれからどうやって活性化するのか。具体的に目標を設定した方がよいと考えられる。

（会長）No. 2 2、4 5、2 5 は再掲となっている。具体的な内容を詰めていかないと、似ている概念だから区別した方がよい。個別のイメージをは

つきりさせて、施策の取り組みを検討してもらいたい。資料1、資料2の整合性はあるか、精査していかなければならない。詰めていただきたい。(亘理委員) 地域づくりは社会福祉協議会も担っており、地域の居場所づくり講座、サロン助成、運営相談、後方支援など取り組んでいる。参考資料1をみると、サロンは思ったよりたくさんある。小さいところから大きいところまで、地域によって偏りがあると認識した。資料を持ち帰り、社会福祉協議会に伝え、資料を生かしていきたい。

(会長) 社会福祉協議会との共通点はある。主体の部分が重要であり、そこを少し明確にしていく必要がある。また、協働は大きなテーマでそこを明らかにする必要がある。

(清水委員) 安心できる住まい、住まい方の支援について、9月中旬から来年3月にかけて、民生委員と消防署と一緒に高齢者の住まいを訪問し、住まいの安全確認・点検をする。高齢者宅の火災が多い。希望者にはいざという時に電気が遮断される設備、家具の転倒防止装置を取り付けることもよいのではないかと思う。意見として申し上げます。

(酒井委員) 体系の見出しがこれでよいか検討するにあたり、肉付けは事務局でもらうとして、清水委員が意見を出した「安心できる住まい」のところは、No. 29から35まで、見出しのレベルや並びがバラバラである。お聞きしたいのはNo. 34の「施設サービスの充実」である。これはどういう内容をイメージしているか。住まいと生活の場という意味から考えると、特別養護老人ホーム、老人保健施設、サービス付高齢者住宅、グループホームなどもある。介護保険の方をみると特に政策的な中身を書く項目がない。そうすると、No. 29から35のあたりで住まいの問題はしっかり書かないといけない。

(介護福祉課長) 特別養護老人ホームの待機者を減らす目的で、特養以外の住宅を含め、サービスの充実を検討する。

(会長) 施設サービスというと出にくい。高齢者の新たな住まいと住まい方などの方がよい。この項目だけでは違和感がある。

(村上委員) No. 17精神保健対策の充実について、他計画との連携は調整中だと思うが、認知症との関連など、今考えていることがあればお聞きしたい。

(介護福祉課長) 社会福祉法の改正で市町村は地域福祉計画を策定することとなり、また、これまでの地域福祉計画を上位計画に位置づける動きになっている。自殺防止、災害時の弱者対策、権利擁護の充実、バリアフリーなど、子どもも高齢者もなく横断的に取り組むものは、地域福祉計画に盛り込む形となった。他の計画も同時に動いているが、調整しながら、高齢

者部門でやるべきことは高齢者保健福祉計画に位置づけていく。

(会長) 地域福祉計画は必置ではないが、つくることが求められている。東京都は地域福祉計画の支援計画をつくる。必置ではないので、その点は確認しておく。この部分に関しては、医療計画との連携も不可欠になってくる。そういう視点でご助言をいただきたい。

(井上委員) 参考資料1の出典が書いてあるが、小金井市わたしの便利帳や応援ブックは紙ベースでの提供しかないのか。普及促進を図る上でホームページをもっと活用したらよいのではないのか。

(会長) 資料が容易に手に入るようにしてほしいということである。参考資料1をみると、4圏域によって違いがある。市全体とともに4圏域についてどう落とし込むかも重要である。また地域福祉の観点で共生ということをどう出すかもある。

(玉川委員) 施設に入っている人の中には、たくさんの薬を服用している。一回処方されると、ずっとそのまま飲み続けていて、本当に必要な薬なのか、その意味においては、医療計画との関連となるだろうが、見直す機会があってもよいのではないのか。情報や知識の提供があると考える機会になる。

(保健福祉部長) 医療の関係については、別途、健康づくり審議会を開催するとともに、健康増進計画策定に向けて検討中である。医師会、歯科医師会をはじめ薬剤師会との意見交換の場もあり、引き続き連携しながら協議していきたい。

(会長) 在宅医療では薬の管理が難しく課題となっている。高齢者がずっと同じ薬を飲み続けることも実際に起こっている。

(橋詰委員) 医療連携については、協議し、すり合わせをしている。機会があれば説明させていただく。

(会長) 以前、小金井市では夜間診療をどうするかということで、かなりの数の医師から手が挙がったが、受け止めてくれる病院がなく、手をおろしてしまったことがある。受け皿をどうつくるかは在宅医療では重要である。在宅医療では夜間診療を受け止めてくれる病院があるかどうか、受け皿の確保が重要である。回復期のベッド数、急性期のベッド数がどのくらいあるか。地域によってばらつきがある。在宅医療が立ち行かないということもありがちなので、検討してほしい。

(会長) No. 28の地域包括支援センターの機能充実については、どういう役割を担っており、何が難しくなっていて、どういう機能を充実していくのか。

(高齢福祉担当課長) 地域包括支援センターは4圏域に分け1ヶ所ずつ配置

している。高齢者の人口増加にともない役割も多くなっていて複雑な事案も増えている。また、対応に苦慮するケースも散見されるという状況である。人員体制、機能の充実については、平成27年度に各センターとも職員を1名増員している。行政との連携についても、密に打ち合わせ等の機会を設け連携している。高齢者が右肩上がりが増える中で、事案が多数発生している。より多くの人に周知を図る必要もある。民生委員の協力も得て個々のケースを支援する必要がある。新福祉会館の中に総合相談窓口が作られるので、連携も課題となっている。

(会長) 生活支援コーディネーターと社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターの関係がわかりにくい。また、生活支援コーディネーターは地域包括支援センターに配置されていて、介護保険だけでなく社会資源を調整して、総合的にその人の生活を支援する専門職である。その役割と運営強化の関係は、場所が離れていて見えにくい。説明しにくいところがあるので検討してほしい。

(会長) 介護保険事業計画と高齢者保健福祉計画のすみわけがわかるようにしないといけない。

(酒井委員) 介護保険事業計画は、保険者としての事務的な記述が中心となる。介護予防や重度化防止を含め、地域での自立した生活を支援するという観点から、柱の一つになるのが介護保険である。介護保険は全体の一部でしかないが、コアにもなっている。介護保険事業計画の中身をどこまで表現するか。つまり保健福祉計画の全体像との関係である。これだけみると、それがわからない。

(会長) 説明は気をつけなければならない。保険料は財政の見解もある。

(酒井委員) 参考資料2について質問がある。複合系のサービス、小規模多機能が平成28年と29年を比べて利用者数が減少している。原因は何か。

(介護福祉課長) 施設は増加している。平成28年9月には2ヶ所、平成29年4月には3ヶ所にふやしているにも関わらず利用者は減っていてなかなか利用が少ない。

(酒井委員) 3ヶ所だと経営的に苦しいという状況があるのでは。

(介護福祉課長) 1ヶ所は4月にオープンしたばかりである。

(酒井委員) 小規模多機能は在宅生活を支える切り札だが、なぜか数字が伸びない。ケアマネジャーの誘導が弱いのか。制度の欠陥もある。他のサービスが使えないとか。市民が必要を感じていないのか。原因について考えた方がよい。

(亘理委員) 民生委員の話によると、今行っている所をやめないといけない等を考えて、様子見をしているようである。とても便利なのでこれからは

埋まっていくだろう。

(会長) ここだけの問題ではなく、他地域でも小規模多機能については出てきている。問題をまとめて何がマイナス要因かを東京都にあげていく。制度の有効性があるから強化しようとしているが、やろうとしても需要がないというのでは、事業所は困ってしまう。

(会長) 参考資料1について、地域包括支援センターで地域ケア会議をして地域のニーズの違いが出ている。

(高齢福祉担当課長) 現在は各地域包括支援センターで年1回、小地域ケア会議を実施している。各地域の課題を地域ケア会議にあげていき、昨年は高齢者の買い物が不便な地域があるという課題が出て、地域ケア会議で意見交換をした。小金井市は小さい地域だが坂上、坂下がある。大学がある地域もあり、高齢者人口も違う。小さいながらも地域の特徴、課題がある。地域の皆さんで支えていただきたいという思いでやっている。7期に向けて会議体も充実していく必要がある。来るべき2025年問題を意識して会議を開催していきたい。

(会長) 町会が強いのは北東圏域(きた)。そういうところでは町会の機能を活用することも考えられる。北西圏域(にし)は新しい住民が多い。

(高齢福祉担当課長) 北西圏域(にし)は学芸大学があるところだ。

(会長) 地域の違いがある。地域診断もしながら、地域福祉計画と一緒にやっていく。4圏域が同じということはない。

(会長) 今回の協議をふまえて調整をしていただいた上で、基本理念や施策の方向について、おおむね資料2のような方向で進めてよろしいか。

[異議なし]

【その他】

- ・新福祉会館建設検討委員会について報告
- ・次回日程報告
- ・福祉保健部長挨拶

【閉 会】

午後3時00分